

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270800265		
法人名	特定非営利活動法人 ひなたぼっこ		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ(高津②)		
所在地	島根県益田市高津四丁目11番16号		
自己評価作成日	2019年 9月 20日	評価結果市町村受理日	令和元年11月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号
訪問調査日	平成元年10月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今までの個々の過ごし方を大切にし、入居者様の気持ちを考え、職員のペースで援助するのではなく、ご本人のペースに合わせた対応を重視している。その中で、できること(残存能力)に目を向け、役割を持っていただき、できることを継続して行えるよう支援している。日々の関わりでは家庭的な雰囲気作り、職員と馴染みのある関係作りに努め、その日に応じた個別の対応をすることで不安をできるだけ軽減し、コミュニケーションを多くとることで、安心して過ごすことができるように心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自己評価表の書式、記入内容変更を行ったことで、理念に基づいた評価を実施することができた。毎月1回自己評価表にて振り返りをし、よりよいケアに繋げるため、職員会議では全体の振り返りをし、ケアの統一化を図った。	毎月1回の会議に向けて、職員1人1人が理念の中の1部分や気になった部分に対して、抜粋して評価を書くようにしており、管理者がそれをまとめて全員で話し合い改善に繋げるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会で定期的実施される奉仕活動やバーベキュー等の行事に参加し、地域との繋がりを大事にしている。	地区の草刈りや溝掃除には職員が参加したり、バーベキューにも声をかけてもらうなど地域との交流は盛ん。花を増やす運動にも加わり、一緒に花を植えたり施設でも鉢を並べ成長を見守っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として実習生の受け入れを積極的に行っている。また、事業所での実践内容を踏まえて、家族会や運営推進会議の出席者に認知症ケアをお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では現在取り組んでいる内容について報告し、取り上げられた意見や助言などは、ホームへ反映し、一つひとつ積み上げていくようにしている。	利用者家族の参加はあまり多くはないが、地域からは福祉推進委員や民生委員、市の担当課からも参加を得て定期に開催。年に1回は警察署からも出席してもらい、離設者や行方不明者の対応について話を聞いたり、市からは高齢者の現状を聞くなど内容を変えて取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所で判断することが難しい内容については、市町村担当者に相談し、解決を図っている。	運営推進会議には市からは毎回参加がある。高齢者福祉課には、更新時の認定調査時の関わりや、保険関連の相談等で話をしたり包括からは施設の空き情報の問い合わせがあったりと、協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や権利擁護に関する勉強会を事業所の中で実施し、職員の共通認識を図っている。また、3ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し、職員会議では身体拘束の確認を行っている。	外部研修に参加したり、内部でも委員会を設置して取り組んでいる。年に2回は虐待を含めて自己チェックを行っており振り返りの機会としている。	不適切ケアについての理解を深めるよう取り組んでいただきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関しての勉強会を実施し、不適切ケアの理解と認識の強化に向けた取り組みを行っている。また年2回(2、8月)虐待防止のための自己チェック、個別面談を実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者様がおられ、後見人との関わりもあるが、機会あるごとに職員への説明を行っている。また、研修に参加し、制度について学ぶことで理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、事業所のケアに関する考え方や取り組み、対応可能な範囲、起こりうるリスクなどについて具体的に詳しく説明し、ご家族に同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の言葉、態度から思いを察する努力をし、意見等はミーティングで話し合い、ケアに繋げている。ご家族には面会や電話時、何でも話していただけるような雰囲気作りに留意している。出された意見、要望等は話し合い、反映させている。	毎月1回様子を伝えるための写真に直筆のコメントを加え送ったり、事業所全体としても季刊誌を発行している。年に1回は家族会も実施しており、食事会をメインに行事の様子等スライドを流し理解を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日、1日2回ミーティングを行っている。日頃からコミュニケーションを図ること、何でも話し合える環境作りに心がけている。また、定期的に個別面談を行い、意見や要望等の確認をしている。	年2回自己チェック表提出時に個別の面談を行うようにしている。管理者は定期的な親睦会を行ったり、一時的な職員不足が生じた際にも内部で補い合う体制を摂るなど、労働環境が整うよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は職員個々の状況を把握し、体調や状況に合わせ、働きやすい環境整備に努めている。また、職員の資格取得に向けた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に合わせた研修の機会を確保し、なるべく多くの職員が受講できるようにしている。また、研修後は報告書の提出をし、現場で活かすように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の連絡会に参加し、必要な情報は管理者会議にて伝達している。年2回の交流会では交代で参加し、他事業所との交流を通して、意見や経験を参考にし、サービスの質の向上を目指している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には事前面談で自宅または施設への訪問を行い、心身の状態やご本人の思い、生活状態を把握するように努めている。また、ご本人の不安軽減と安心できる生活を送れるよう、体験入居を実施し、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前までのご家族の苦労や思いなど、これまでの経緯について、細かく確認している。ご家族の思いを受け止めながら、信頼関係を築くことに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の思いや状態を確認し、何が必要であるか見極めるように努めている。改善に向けた支援をご家族と一緒に話し合い、必要に応じて他のサービスの検討もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は人生の先輩であることを職員が認識し、ご本人の思いを共感し、一方的なケアにならないように、できる事(残存能力)を活かせる場面作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族の思いに寄り添いながら、利用者様の状態や気づきを細かく報告し、情報共有に努め、ご本人を支えていくための協力関係を築くように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの関係が途切れず、その人らしい生活が送れるように、自宅への外出援助も含め、一人ひとりの生活習慣を大切に、支援に努めている。	交通機関が利用しにくい場所ではあるが若い入所者もあり面会者は多い。隣のユニットに知り合いがおられる方があり、お互いを行き来して、関係が継続するようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性について情報連携し、全職員が共有できるようにしている。心身の状態などによって変化することもあるので、見守りを行っている。席の配慮、職員が調整役になることで関係性が円滑になるような働きかけを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた場合、アセスメント、支援状況等の情報提供をし、伝達することによって連携を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から希望や意向の把握に努め、言葉や表情などから思いをそれとなく確認するようにしている。意思疎通が難しい方についてはご家族等から情報を得るようにし、ご本人の気持ちに立って検討している。	家に帰ってみたい。好きなお菓子を 買ってきてほしいなどの訴えがある が、できるだけ対応するようにして いる。遠慮を言えない方には察知 するようにしている。	個々の能力に目を向け、残存能力を 生かす等、個別援助の充実に取り組 んでいただきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に多くの情報を得るように心がけているが、不足している部分もある。入居後もご家族からの情報収集に努め、ご本人との関わりの中や会話の中からも少しずつ把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活リズムを理解するとともにご本人に合わせた対応をしている。日々、変化する心身状態、生活の様子などから体調を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日ごろの関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させるよう努めている。カンファレンスを含め、意見交換やアセスメント、モニタリングを行っている。	家族が遠方や仕事等で参加が難しい場合は電話で意向を聞くようにしているが、できるだけ本人に家族関係者の参加で話し合うようにして、介護計画を作成している。定期的モニタリングも行い変更に繋げるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の状態変化や職員の気づきは個々の介護記録に記載し、ミーティングや伝達記録の使用にて職員間の情報共有をし、対応の統一化を図っている。また介護記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人にとって負担となる定期受診は往診にて対応しているが、ご本人の状態に合わせて、通院等の支援を柔軟に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員の方が出席され、地域行事などの情報交換、協力関係を築き、意見交換する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医について相談し、往診対応可能な病院の中から希望される病院に決めていただいている。状態の変化に応じて主治医やご家族に相談し、専門医の診察を受けている。受診時は職員付き添いにて対応している。	往診可能な協力医を3名確保しているが、以前のかかりつけ医を継続することも可能なため、入所時にその旨説明し選んでもらうようになっている。協力医には休日夜間等でも指示が得られるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者様の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員不在時、変化に気づいた時は必要に応じて適切な医療につなげ、報告などで連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人の情報を医療機関に提供し、定期的に面会するように心がけている。病状や入院時の状態についても相談員を通じて確認し、退院調整をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末に対する指針を定めている。ご本人の状況に応じて、ご家族、医師、看護師を交えて話し合いを行い、状態の変化があるごとに、ご家族の気持ちの変化やご本人の思いを探り、支援している。	5, 6年前に看取りを行ったことはあるも、現在は全体的な介護度が軽くなり安定している。重度化に向けては介護度が3になった時点で特老等への入所も含めて話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、救命講習を実施し、全職員が2年に1回交代で受講している。また、緊急時の対応について会議等で確認し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、利用者様とともに年2回総合避難訓練、年1回非常災害訓練を実施している。地域の協力体制については、運営推進会議で協力を呼びかけている。	自然災害については可能性が少ない立地条件のため、基本はほかの場所への避難は想定していないが、火災を主に日中、夜間に分けて訓練を定期的に行っている。地区の関係者の参加もあり、消防署の指導受け実施している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会、ミーティングの際に職員の意識向上を図るとともに、振り返りを行っている。職員のペースで介護するのではなく、ご本人の人格を尊重し、気持ちを考え、意思を優先するような声かけ、対応をしている。	介護者を優先するのではなく、本人のペースにあわせることをケアの基本として、会議の中で振り返りをするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に合わせて声をかけ、意思表示が困難な方については、表情などから読み取るようにしている。ご本人の気持ちに沿えるようなケアの実践に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った対応はせず、一人ひとりのリズム、体調に配慮しながら、その時のご本人の気持ちを尊重した対応としている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的にはご本人の意向で決めており、必要に応じて援助している。介助の必要な方はご自分が好んで着ておられた衣類を持っておられ、その中から気候等を考え、ご本人の気持ちに沿った支援を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は盛りつけや下膳が主な役割となっていたが、野菜皮むき、食器洗いなど、利用者様ができる家事を職員と一緒にを行うように努めた。利用者様と同じ時間に食事をしているが、楽しく食事ができるような雰囲気作りに心がけていきたい。	主に調理を担当する職員を配置しており、食材の買い物には一緒に出かけ3食ここで作っている。冷蔵庫にある物で対応するようにしているので、メニューについては定期的に管理栄養士の指導を受けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容や摂取量を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。ご本人に合わせた食事形態で提供し、水分摂取量には気をつけ、摂取量確保できるよう、さまざまな飲み物を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの習慣や意向を踏まえ、個別に働きかけを行っている。義歯の方は就寝前に義歯洗浄、消毒を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄、尿意、便意の維持を目指し、行きたい時に行き、トイレで排泄できるよう、排泄チェック表を使用しながら、ご本人のリズムに沿った支援をしている。	排泄の時間を決めることはせず、行きたくなったら行く形をとっている。前回の時間から見て長くなれば声がけするようにして自発的な動きを尊重するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、乳製品を取り入れ、十分な食事量や水分量を確保するようにしている。水分摂取量の少ない方には定期的に提供し、自然排便できるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は決まっているが、入浴前には利用者様のその日の希望を確認して入浴していただいている。	家庭浴槽の為1対1を基本とし、週に2回のペースで入浴できるようにしている。外出とかの行事に合わせて、午前午後の入る時間や日にちを調整している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や状態に合わせてながら、日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。休息の時間も取り入れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルやお薬手帳を整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は、ご本人に合わせた介助をし、確実に服用できているか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮していただけるよう、これまでの生活歴を活かし、手続き記憶として今までできてきた作業、できることはお願いしている。その都度、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様からドライブ等の要望があった場合や天候の良い日には外出の援助をし、季節を肌で感じいただき、心身の活性に繋がるよう援助している。	外出行事は計画的に行っているが、普段は食材の買い物や近所の散歩、ドライブ、集会所に出かける機会をできるだけ増やすようにして、外気や外部の方とのふれあいの機会としている。その他2つのユニットを行き来することで、精神面の刺激となるように取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金が手元にあることで、安心感を持たれる方については、ご家族同意の上、少額のお金を所持されている方がおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様より電話の要望があった際は自由に使用していただいている。取次ぎもしている。毎月のひなたぼっこ便りには、記入が可能な方はご本人に一言書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じるができるよう、ホールに飾りつけをし、花を生けている。不快を感じないように空調等で温度調整をしている。	既存の住宅を利用し新たに3部屋を建て増した建物になっている。廊下が狭くやや暗い為動きにくさはあるが、日本家屋の落ち着いた雰囲気も感じられる。ダイルームは広さもあり明るく、高台で遠くに海が見え季節を感じながら生活できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者様同士で過ごすことができるよう、関係性を配慮し、ご本人の居場所が確保できるレイアウトとしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等を持ち込まれている。ご本人にとって使用しやすく、馴染みのある環境を施設で作り、不安なく過ごせるように配慮している。	日本間の床の間を利用し、自分の好きな物をたくさん飾ったり、壁にも写真や家系図を貼ったりして独特の部屋を作るなど、既存の物をうまく利用した部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活しやすい環境整備に努め、利用者様の状態変化に応じて、対応している。		